

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	みやき町立三根西小学校
1 前年度 評価結果の概要	・最終評価では、ほとんどの項目で成果指標を達成することができた。 ・毎月のアンケートへの対応や教職員による日頃の継続的な見取りを丁寧に行ってきたことで、いじめの未然防止や早期発見ができ、児童は安心して学校生活を送ることができた。 ・様々な業務改善策に取り組んできたことで、職員のタイムマネジメントへの意識が高まり、時間と気持ちに余裕を持って業務に取り組んだ職員が増えた。 ・国語、算数共に学力の定着に課題が残った。今後、読む力を高めるために読書の推奨をし、表現力を伸ばすために話し合いや自分の考えを書く活動を取り入れるなどの授業改善を行い、学力の向上を図りたい。
2 学校教育目標	やさしく、かしこく、たくましい三根西っ子の育成

3 本年度の重点目標	①やさしい子を育む（思いやりを持ち、助け合う子供の育成） ②かしこい子を育む（進んで学び、よく考える子供の育成） ③たくましい子を育む（生き生き活動する元気な子供の育成）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価			最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師85%以上	・教職員間で共通実践や成果指標を共通理解し、毎月の校内研修で取組の推進を図る。 ・家庭学習の大切さや具体的な取り組み方を児童・保護者に伝え、家庭学習の習慣化を図る。 ・教員の指導力向上のため、通信を発行する。	A	・全職員が学力向上対策評価シートの成果指標を達成できるようにするために、成果指標の共通理解を図り、共通実践につなげる研修会を設けた。 ・家庭学習の大切さや具体的な取り組み方を児童・保護者に伝え、家庭学習の習慣化を図った(教師92%。 ・今後は通信や教師間で相互の授業参観を取り入れることで、教師の指導力向上を図る。	A	・成果指標90%達成。 ・教師間で授業参観を取り入れ、良さを伝えあったり、取り入れたりして、指導力向上を行った。 ・家庭学習頑張ろう週間では、保護者に毎日チェックをもらい、感想を書いてもらうことで児童のやる気につながった。また、自主学習ノートコンテストを行い、児童のやる気につながった。 ・指導向上の通信を出し、情報共有を行った。	A	・授業参観での姿を見て、子供たちが意欲的に授業に取り組んでいることが確認できた。 ・家庭学習頑張ろう週間があることで、子供がいつも以上に頑張るようになる。普段より自学に多めに取り組んだり内容を工夫したりしている。 ・教師間で授業参観はとてもよいと思う。	
	○校内研の推進	○体育に関するアンケートにおいて「友達と話し合うのが好きだ」に肯定的な回答をした児童が80%以上	・めあて、見通しが分かる授業を行う。 ・学習カードの共有を進める。 ・授業の中に、友達との関わりを重視した活動を取り入れる。	A	・アンケートにおいて「友達と話し合うのが好きだ」に肯定的な回答をした児童93%。 ・「めあてのことを考えて学習に取り組んでいるか」に肯定的な回答をした児童93%。 ・今後、様々な領域で学習カードの共有ができるように、全学年への呼びかけを増やす。	A	・「友達と話し合うのが好きだ」に肯定的な回答をした児童93%で、目標値である80%を大きく上回った。今年度、話し合い活動を「にっこにこタイム」と名づけ、授業に積極的に取り入れた効果は大きい。 ・「めあてのことを考えて学習に取り組んでいるか」に肯定的な回答をした児童は88%で、めあてや見通しを意識した授業づくりが行えたことがあゆめる。 ・ワークシートのデータを共有することで、学年が異なっても、その学年に応じた内容に改変して使うことができた。	A	・「にっこにこタイム」の取組が素晴らしい。対面で会話をする時間は子供たちにとって貴重な時間だと思う。 ・「にっこにこタイム」で、より多くの友達といろんな意見交換ができるのが楽しいようだ。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・道徳に関するアンケートを年に2回実施し、変容をみる。 ・学級活動や縦割り活動を行い、自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。	B	・アンケートにおいて「道徳の時間に進んで自分の考えを書いたり、話したりしている。」に肯定的な回答をした児童87%。「道徳の時間に友達の考えをよく聞いて、自分の考えとくらべている」に肯定的な回答をした児童93%。 ・学級会(話し合い活動)を通して、集団遊び等について話し合ったことで、児童の自己有用感が高まりつつある。	A	・道徳アンケートにおいて、自分の考えを書いたり、話したりしている児童82%。友達の考えをよく聞いて、自分の考えとくらべている児童91%。命を大切にすること、思いやりの行動を心がけている90%、協力助け合い97%、正義感92%の児童が肯定的に回答している。 ・学級集会や遊び、そして縦割りでの活動を通して、活躍の場が増えたことで、いいこといっぱいカードで紹介される児童も増え、自己有用感の高まりにつながっている。	A	・「いいこといっぱいカード」が掲示されているのを見て、心がほかほかになった。カードを書いて、お互いにいいところをほめることができるのはとてもよいと思う。 ・命の大切さについて、親子でも学ぶ機会があればよいと思う。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的に対応できていると回答した教員85%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	・「いじめの早期発見を意識している」「生徒指導に関して職員間で共通理解をしている」と回答した職員100%で、全職員で組織的に対応をすることができている。 ・いじめ対応マニュアルの見直しを行い、早期発見・早期対応に努めている。 ・いじめ対応についての研修・会議を今年度2回行い、3回目を12月に行う予定である。	A	・いじめ防止について全職員が組織的に対応できていると答えている。 ・定期的に「なかよしアンケート」を行い、情報を共有している。 ・いじめ対応に関する研修を3回行う。	A	・アンケートでもしてもらえるので、いじめかどうかや先生に伝えたい方がいいのか迷うことも伝えるいい機会になっていると思う。 ・本校のような小規模校の特徴かもしれないが、親子で仲がよいことが多く、いじめの実態が表に出せない家庭もあるかもと思う。	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童生徒80%以上 ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・キャリアパスポートの活用を図り、年度初めに立てた年間の目標に対して、振り返りを行い、達成度を自己評価をさせる。 ・「夢の教室」や道徳を通して、児童に夢をもつことや、夢に向かって努力することの大切さを、実感させる。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童85%。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童89%。 ・今後も引き続き経験や学習を通して、いろいろな夢や目標があることに気づかせていく。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」と回答した児童89%。 ・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童92%。 ・「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と答えた児童について、今後の対策を考えていく必要がある。	A	・とても前向きな回答が多く、嬉しいと思う。残りの約11%が同じ学級なのか全体的でなのか、人数では何人なのか気になる。 ・自己肯定感が高くなると、自分だけでなくまわりの友達との関わりもよくなると考える。 ・小学生なので、まだ将来について曖昧で決まらないというのもし方ないと思う。漠然とでも夢をもって、それに向かって頑張れるのはとてもよいことだと思う。	
	●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と考える児童80%以上	・栄養教諭と連携して、各学年に応じた食育の授業や啓発を行う。 ・朝の健康観察で、朝食の内容を含めた喫食の実態把握を定期的に行う。	B	・生活状況調査で「1学期、朝食をとって登校した」と回答した児童98%。 ・栄養教諭が、給食の時間に各クラスの様子を観察し、食に関する指導を実施した。 ・3学期も食に関する指導を実施する予定である。	A	・健康によい食事をしていると考える児童が、89%(1～3年生)、91%(4～6年生)。 ・栄養教諭が、給食時間の巡回のほかに、1～5学年の各クラスと、病弱学級の給食時間や学活の時間に、食育指導を行った。担任から、各クラスの食に関する状況を聞き、成長段階に応じた指導を行うことができた。	A	・学校の給食がとてもおいしいようで、家でも再現して作らせてもらっている。レシピの提供をお願いしたい。 ・給食がおいしいと言っている。いつも栄養のバランスを考えて作っていただけてありがたい。
●運動習慣の改善や定着化		●休み時間に外遊びをする児童の割合85%以上	・休み時間の遊びイベントをスポーツ委員会を中心に企画し、実行する。 ・佐賀県スポーツチャレンジの周知と全学年への参加を呼びかける。	B	・「休み時間に外で遊んでいる」と回答した児童は、全校児童の約70%。 ・熱中症指数が上がり、外に出られない日が続いた分、これからたくさん運動ができるよう働きかけていく。現在、スポーツ委員会で「ドッジボール大会」の実施を計画している。	A	・「休み時間に外で遊んでいる」と回答した児童が92%だった。 ・スポーツ委員で縄跳び大会やドッジボール大会を実施して児童に呼びかけることができた。	A	・学校を訪れたときに、みんな大きな声であいさつを返してくる。 ・縄跳び大会では縦割り班で一生懸命に活動している様子に感動した。 ・夏の暑い時期や天気が悪いときは難しいかもしれないが、外で元気に遊んでいるのはよい。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する教職員80%以上	・施設時刻を提示し、定時退勤日を設定する。 ・衛生委員会を通じて勤務実態の共有を図り、業務改善の意識を高める。 ・校務シェアボード等ICT機器の利用を推進し、会議時間の短縮や分掌事務の効率化を図る。	A	・「時間外在校等時間を月45時間以内におさめることができる」に「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した職員が100%と、職員の業務改善に対する意識が高まっている。 ・5月以降、すべての月で全職員の時間外在校等時間の平均が30時間以内を維持することができた。	A	・3学期から児童の下校時刻を30分早めたことで、業務に充てる時間が確保しやすくなり、職員の業務改善につながっている。職員の時間外在校等時間の平均が30時間ほどで推移しており、施設予定時刻までの運動がほぼ定着した。 ・「タイムマネジメントを意識して、業務改善に努めている」に、「当てはまる」「だいたい当てはまる」と回答した職員100%。	A	・(下校時刻を早めたことば)大人も子供も心の余裕ができ、素晴らしいと取組だと思う。より一層、先先生方が充実した授業を行えるように続けてほしい。 ・下校時刻が早まったのはとてもよいと思う。しかし、休み時間が短くなり、トイレや次の準備が大変にはなっているよう。傾けてくれれば大丈夫かと思うが。	
	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に対する意識が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施したと回答した教員80%以上	A	・夏季休業中に、職員を対象にした特別支援教育に関する研修会を実施したことで、職員全体の特別支援教育に対する意識が向上している。 ・強力的にケース会議を行い、関係者間での情報共有や児童の支援について協議することができた。 ・次年度に向けて児童の情報をまとめ、引き継ぎに備える。	A	・特別支援教育に関する意識が向上した教員は、93%であった。 ・特別支援教育に関する研修会を1回実施した。 ・ケース会議10回実施し、職員間、保護者、専門機関と困り感をもっている児童について情報を共有したり、支援の手立てを協議したりすることができた。	A	・特別支援教育が必要なご家庭に寄り添った考えを研修会などで勉強することで、子供たちが安心して登校できていると思う。 ・特別支援教育も昔に比べて充実しているし、手厚いと思う。 ・一人一人違うので、情報共有は大切だと感じる。	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○チーム学校としての取組の推進	○地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携の推進	○「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師80%以上	・児童の安全確保や各種行事の効果的・効率的な実施のために地域との連携を図る。 ・小小ギャップや中1ギャップの軽減のために、幼保小連携、小小・小中連携の推進を図る。 ・配慮を要する児童やその保護者の支援のために、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー等外部機関との連携を図る。	A	「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師は100%。 ・幼稚園、保育園、こども園の指導者を招いての授業参観を行い、幼保小間での交流ができた。 ・3学期は、来年度に向けた情報交換会や親児と児童の交流活動を行っている。 ・小学児童が中学校の授業や部活動の様子を観戦したり、中学校の生徒が小学校に挨拶運動や体育大会でスタンプ、職員体験に参画しているなどの交流ができた。 ・配慮を要する児童やその保護者を、状況に応じてカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーへつなぎ、定期的に情報共有をすることで連携して支援することができている。	A	「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師は100%。 ・入学予定の園児について園と情報交換会を設けたり、年長児を招いて交流会を行った。幼保小間での交流ができた。 ・交流を要する児童やその保護者の支援のために、スクールカウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカーを含め、ケース会を行った。	A	・学校運営委員会を通して、もっと地域と連携がとれたらいいなと感じる。親と子が学校のありがたみを感じて、「子供のために」「自分を大切にするために」活動に協力していきたい。 ・幼稚園や保育園の子供たちも、交流金があるので、小学校がどんなところか知ることができ、1年生になるのを楽しみにしてくれると思う。小中の交流も同様。 ・実態の捉え方を教職員と地域で共有していきたい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・対話活動や家庭学習への取組が児童の学力向上に繋がるよう、より意図的に仕組んでいく必要がある。 ・今後も様々な策を講じながら職員や児童の意識を高め、いじめの未然防止と早期発見、早期対応に努めていきたい。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれると思う」という問いに対して、すべての児童が肯定的な回答ができるよう、職員の意識や指導力を高めていく必要がある。 ・校時表の見直し等、様々な改善策に取り組んだことで、職員の時間外在校等時間が減少した。今後も、様々な観点から業務改善につながる取組を行い、個々の職員のタイムマネジメントへの意識をさらに高めていきたい。
----------------	--